

2019年度事業報告書

(2019年4月1日から2020年3月31日)

I 事業の成果

フードバンク京都は、2020年3月31日をもって第2期の事業年度を終了することができました。前年度は、10月にNPO法人になったばかりで、半年間の事業報告でした。今年度は、法人化して初めての1年間の事業の成果をまとめることになりました。

食品ロス問題は日本の大きな課題になっており、2019年に「食品ロス削減推進法」が成立しました。これで一気に解決するものではありませんが、このため、私たちの活動に公的な支援が出てきたり、企業が私たちの取組に目を向けるようになってきたりして、フードバンク活動の環境が変化してきています。

本年度は、昨年に引き続き、さまざまな分野からご寄贈いただいた食品と自主農園で生産した野菜などを、社会福祉施設や生活困窮者を支援している団体や、また、子ども食堂及び第三者機関からの依頼での緊急支援（個人）に食糧提供しました。そのため、社員がそれぞれの分野で力を発揮して、全体として力を合わせて取り組みました。また、ありがたいことに、社員以外でボランティアとして参加していただいた皆さんの支えも受けています。

具体的には、従来の活動を引き続き展開してきました。すなわち、第一に福祉施設（母子・児童養護・更正）への定期的な食糧支援です。週1回、お米やパン、野菜を届けています。また、第三者機関を通して、さまざまな事情で経済的、身体的に激変した家庭への緊急支援も行っています。

第二は、フードドライブの実施です。フードドライブは、家庭で余った食品を持ち寄り、フードバンク京都を通じて必要なところに届けるという取り組みです。本年度も、ビバスポーツアカデミー（南草津）、国際ソロプチミストの皆様によるご協力、大手スーパーとの協働による取組、向日市まつりでの取組、京都府農林水産フェスティバルでの実施など、幅広く実施できました。

また、今年度は新たにライオンズクラブ、龍谷大学学生有志、京都インターナショナルスクールなど、運動の輪が広がりました。そして京都府立南丹高校では、SDGs学習に関わって食品ロス問題を取り上げ、私どもが講話をしましたが、その後、生徒さんたち自身が行動を起こし、企画立案、ポスターなどすべて独自に仕上げ、地域のイベントでフードドライブを計画してくれました。残念ながら新型コロナウイルスでイベント自体が中止になってしまいましたが、こうした若い人の積極的な取組は私たちを元気にしてくれます。

第三は、若者たちへの広報活動で、前記の高校以外に、岡山県立岡山操山中学、大阪府の関西大学附属高校、岩手県立盛岡第一高校が、それぞれグループで、京都まで学びにきました。いわゆる「総合的な学習の時間」のテーマ研究で、食品ロスや子どもの貧困問題を研究調査している生徒さんたちです。いずれも2時間近くにわたって、熱心に話を聞き、鋭い質問もして、深く学んでいきました。広報活動の一つとして今後も大切にしていきたいと思います。

第四は、自主農園での生産活動です。農園は、約0.2ヘクタールの広さがあり、専門家による指導を受けながら、専門のスタッフと臨時のボランティアによる活動を展開しています。農薬不使用の栽培で、安全・新鮮な野菜を、一年中途切れることなく生産していて、諸施設に届けています。自然農法に近づけたフードバンク農園の野菜は、草や虫と共存しながら成長するので、食べ物は生き物であることを実

感できる活動にもなっています。たとえば、春には、新玉ねぎ、夏にはエンドウ、トマト、ピーマン、スイカ茄子、秋にはカボチャ、里芋、冬には大根、にんじんなど、大変喜ばれています。農機具等をどう調達するかは課題をかかえつつ、一方では、水のくみ上げ発動機を高島屋の歳末助け合い運動からいただいたりしています。現在は、トイレの設置についてクラウドファンディングの実施も検討しているところです。

自主農園の生産物以外の食品は、すべて企業や団体、個人から寄贈していただいています。大手スーパーや企業、個人経営の食品メーカー、NPOの諸団体、学校法人、寺社、農家、個人の皆様から支援をいただきました。本年度は、特にコプロ社から大量の食品等をいただきました。このため、どうしても倉庫の確保が必要になってきて、うれしい悲鳴をあげています。この場をお借りして、ご協力いただいた皆様に心から感謝申し上げます。

具体的な成果（数量等）は、以下、「Ⅱ 事業実施に関する事項」で報告いたします。

Ⅱ 事業実施に関する事項（特定非営利活動に係る事業）

（1）社会福祉施設及び要支援者への支援を行っている団体等への食糧提供事業

母子支援施設、児童養護施設、自立支援ホーム、子ども食堂の他、炊き出しなどで困窮者への支援活動を行っている団体への食糧の提供を行った。

支援先（入居・利用者数）	支援回数（回）	食糧提供量（kg）	備考
母子生活支援施設 3ヶ所（入居者・利用者数210人）	87回	2,786kg	
児童養護施設／自立支援ホーム 4ヶ所（入居者数200名）	37回	632kg	
更生保護施設 1ヶ所（入居者数20名）	31回	441kg	
支援活動団体 7ヶ所（利用者数353名）	33回	1,383kg	
子ども食堂 6ヶ所（利用者数260名）	49回	1,211kg	
合計（入居・利用者数合計1,043人）	237回	6,453kg	

【事業概要】

(A) 事業の実施日時	120日 (毎月 第2・4日曜、第1月曜、第2・4火曜、第3水曜、第2木曜ほか)
(B) 事業の実施場所	京都市、宇治市、亀岡市、向日市の各施設・団体 (母子施設3ヶ所、児童養護施設／自立支援ホーム4ヶ所、更生保護施設1ヶ所、支援活動団体7ヶ所、子ども食堂6ヶ所、合計20ヶ所)
(C) 従事者の人数	延べ240人
(D) 受益対象者の範囲	上記施設・団体の入居者・利用者（1,043人）
(E) 人数	延べ3,960人
事業費の金額	79,000円

（2）行政機関などからの要請に応じて、要支援者への食糧を手配する緊急支援事業

福祉課や生活支援センターから、困窮状態に陥った市民への支援要請に応じて、できるだけ迅速に緊急支援食糧を届けた。

支援先	支援回数（回）	食糧提供量（kg）	備考
京都府内	73回	1,324kg	

合 計	73回	1,324kg
-----	-----	---------

【事業概要】

(A) 事業の実施日時	73回（不定期）
(B) 事業の実施場所	京都市、宇治市、向日市、八幡市、木津川市、大山崎市、綾部市の行政・支援機関
(C) 従事者の人数	延べ62人
(D) 受益対象者の範囲	行政・機関が支援する困窮者
(E) 人数	延べ121人
事業費の金額	40,500円

(3) 個人、団体、企業からの食糧の引き取り事業

個人、農産物の生産者、食品生産企業、小売りスーパーの他、学校法人や病院などの災害用備蓄食料、京都マラソンなどのイベントでの余剰食糧など無償で提供していただける食糧の引き取りを行った。

食糧提供者・団体など（敬称を省く）	内容など
明石農場	野菜
芦田（農家）	野菜
石田ファーム	野菜
(株)ダイエー	ドライ食品・飲料
京都薫風ライオンズクラブ	ドライ食品
京都マラソン	飲料・菓子・果物・パン
京果グリーンセンター	野菜
京都ボランティア協会	飲料
国際ソロプチミスト京都	ドライ食品・菓子
コンディトライマウジー	菓子
大京食品株式会社	お揚げ
ビバススポーツアカデミー南草津店	ドライ食品
向日市まつり	ドライ食品
矢野食品株式会社	こんにゃく
立命館衣笠キャンパス	ドライ食品・災害用備蓄食品
立命館大学大阪いばらきキャンパス	災害用備蓄食品
立命館宇治中学校・高等学校	災害用備蓄食品
立命館大学朱雀キャンパス	災害用備蓄食品
その他スーパー・団体・個人（フードドライブを含む）	ドライ食品・お米・野菜・飲料・菓子

【事業概要】

(A) 事業の実施日時	約210回（不定期）
(B) 事業の実施場所	京都府内、長野県、滋賀県
(C) 従事者の人数	延べ62人
(D) 受益対象者の範囲	施設・団体の入居者・利用者、行政・機関が支援する困窮者
(E) 人数	延べ8,010人
事業費の金額	20,002円

(4) 支援農産物の確保のための自主農園での生産事業

無償で貸していただいている農園で、自然農法の専門家の指導を受けながら、より安全な農産物を生産した。

【事業概要】

(A) 事業の実施日時	84日(毎週日曜・月曜)
(B) 事業の実施場所	京都府京都市西京区大原野
(C) 従事者の人数	240人
(D) 受益対象者の範囲	施設・団体の入居者・利用者、行政・機関が支援する困窮者
(E) 人数	延べ4,022人
事業費の金額	68,709円

(5) その他の活動

- 7月 京都府立南丹高校3年生(16人)への講話。SDGsの取り組みの中で「飢餓・貧困」をテーマにしたグループ。
- 10月 関西大学高等部1年(5人)への説明と質疑。テーマ「貧困問題」
- 11月 岡山県立操山中学校2年(4人)への説明と質疑。テーマ「食品ロス問題」
- 11月 岩手県立盛岡第一高校1年(4人)への説明と質疑。テーマ「子どもの貧困問題」
- 11月 近畿農政局主催「フードバンク活動促進に向けた情報交換会」出席
- 12月 京都インターナショナルスクールでのフードドライブと活動についての講話

ミーティングの開催 スタッフ間での情報共有、今後の課題や活動についての意見交換を実施
(2019年8月11日、10月27日、2020年2月23日、3月22日)